

浜嶋です。

私は、金曜日に、いつもの免疫力低下による感染の防止対策で入院しました。病棟では、マスク着用、手洗い、うがい、部屋の入り口に設置された泡のアルコール手指消毒剤による消毒を義務付けられます。

最初に病室にやってきた担当の看護師は、前回私に血圧計をつけたことを忘れて、25分間戻ってこなかった上田さんでした。

「浜嶋さん、もう説明はわかりますか」と言われて、「今回5回目ですから大丈夫。すべて説明していただいたことにします」と答えました。

これで、退屈な病院生活が始まりました。しかし、今回はちょっとした事件がありました。

トイレから戻って、部屋に設置されている消毒剤を使用すると空になっていることがわかりました。通りかかった看護師さんに、「消毒剤が空です」と伝えました。「担当に言うておきます」と返事がありましたが、なかなか補充されません。補充されていたら、このメールを書くことはなかったはずです。

その後、別の看護師にも伝えました。担当が違うという用務員もいました。

そして、私は、隣の部屋の消毒剤を使うことにしました。

「えっ、これも空だ。なんでー！」
しばらく様子を見ることにしました。

翌朝、まだ、変化はありません。朝一に昨晚からの私の担当看護師に、
「看護師長にお話があります。呼んでいただけますか」とお願いしました。
ところが、

「看護師長は、土日はお休みです」
「明後日まで会えないか。しかたがないね」
これで、方針を変更しました。

もう一方の部屋も調べました。

「これも空？ うそー」だったのです。
しかたがないから、洗面所に置かれた消毒剤を必ず使うことにしました。

10時に交替して勤務についた昨日の上田さんに、

「上田さん、消毒剤が空になっているよ」と伝えました。
すると、すぐに動いてくれて、両隣の分も交換してくれました。
体温を測り終えてから、私は上田さんに話し始めました。

「私ね。ボーイスカウトをやっているんです」
「へえ、駅で募金活動しているやつね」
「そうだけど、そういうところしか目につかないね。ボーイスカウトは、ボランティアが目的じゃないです。募金活動は活動の一部分です。スカウトの教育活動をやっているんです」
「キャンプとかハイキングですか」
「そうそう。
それでね。安全な活動を行うための、危機管理や、危害を防止することもあるんです」
「はい？」
「私は、クレームを言うつもりじゃなくて、上田さんに考えてほしいことがあります。病院の安全対策として、消毒の励行を口酸っぱく言っていますね。すごいなあと安心感を持っています。私たちも実行しています。それなのに、環境が疎かになっていることが気になります。
私が交換をお願いした看護師の危機管理意識を疑いました。これを、看護師長にお話をしようとして依頼したら、今日から休日で月曜になると聞きました。
上田さんがすぐにやってくれたからうれしいです」
「私は、忘れやすいので、すぐにやることにしています」
私は、笑いながら、「確かにそうでしたね。メモを作ってはどうですか？」
「メモを作っても忘れるんです」と自信無さそうに言いました。

それで、話を戻しました。
「3つの部屋の消毒剤が同時になくなることはないでしょう。おそらく以前から空になっていたことでしょう。どういう管理をしているのかなと思ったのですよ。
それに消毒剤がなくなっていることは大変なことですよ。それが危険な状態と認識できないのは、危機管理意識が足りません。本当に患者の安全を考えて、消毒が大切だとわかっているのでしょうか。危機管理のことわかりますか？」
「はい。看護師長にも話してください」

今朝。半信半疑で期待していなかった看護師長がベッドにやってきました。話が伝わっていたことに変な感動を覚えました。何度も迷惑をかけたと言われました。犯人探しが目的

でないので、一応説明して、安心できる病院にしてほしいとお願いしました。昼時間に打ち合わせの時間を取って対策を話し合うとのこと。こんなことがきっかけになるとは、自分を責めているようでした。

組織全体で危機管理意識を共有することが大事だと思います。意識が個人を動かすようになります。ここが病院に欠けていたのかな。

「安心してください！」ボーイスカウトは、進んでいますよ。私は、誇りを持って活動し、誰にでも説明できます。これもボーイスカウトの信頼獲得のPRです。

スカウトは友達に！ 指導者は、職場で、社会でPRしよう。

私の目標と実践

～保護者の理解が深まれば、2団が変わります。全員でスカウトを育てよう～